

令和 6(2024)年度 施政方針

市長が議会で、その年の市政運営の方向性を示す「施政方針」。2月議会で、市長が述べた施政方針演説を紹介します。

令和 6(2024)年度の事業内容は、6～7ページをご覧ください。

はじめに 危機感の中から可能性を見いだす

令和 6(2024)年度当初予算をご審議いただくに当たり、柏崎市民の皆さま、市民の代表たる柏崎市議会の皆さまに施政方針を申し述べます。

今から 46 年前、1978 年、『不確実性の時代』という本が出されました。著者は、カナダ出身のアメリカ人経済学者ジョン・ケネス・ガルブレイス。経済学を歴史的観点から考察したものであり、現代のことを予測して書かれた内容ではありません。しかし、皆さんもご承知のとおり、新型コロナウイルス感染症、世界で起こっている戦争、地球の気候変動、温暖化、地震など今、正に不確実な時代になってきたように思われます。

昨年夏、個人的にネパールを訪ねました。20 年振りでありました。以前、首都カトマンズに目立った日本製の中古車は姿を消し、タクシーにインド製の日本ブランド中古車が使われているだけであり、真新しい車のほとんどは日本ブランドではありませんでした。また、かつて当たり前であった停電は少なく、水力発電による電力の供給が十分なものであり、隣国へ輸出しているという話さえ聞かれました。一方、地球温暖化はヒマラヤにも及び、氷河の溶解、流れ出る水量を心配しているという声がありました。ネパールは国力を増し、活力に満ち、日本の地位は下がり、脱炭素社会、環境問題への取り組みは待たなしであると実感しました。

11 月には、原子力政策において対極的なフランス、ドイツを市長として訪問し、それぞれの自治体の市長と意見交換を行ってまいりました。両国それぞれが理想を定め、現実を見極め、覚悟を決めた施策展開をしていらっしゃる印象がありました。エネルギーセキュリティと環境問題への認識、意識の高さは、基礎自治体においても際立っていました。世界は、ダイナミックに動いています。

日本の国内総生産 GDP は、アメリカ、中国、ドイツに続き、現在 4 位、2026 年には、インドに抜かれ 5 位になると言われています。また、一人当たりの労働生産性 31 位。もちろん、人口も産業構造も異なるわけですが、それぞれの数字は、日本の停滞を意味しています。

少子高齢化の進展による人材の不足、社会保障費の増大、国家財政の悪化、経済の低迷、エネルギー、食糧等の外国依存、気候変動による災害の多発常態化など、わが日本を巡る状態は、非常に厳しいと理解しています。そして、これらは、ほとんど柏崎にも当てはまる「確実な事実」であります。

「わかっている」しかし、私を含め、見過ごし、行動に移さなかったがゆえに、今の日本、柏崎の姿になってしまったように思われます。象徴的な事柄がエネルギー施策です。日本においては、柏崎においては、反原発、再生可能エネルギーだけではだめなのです。原発だけではだめなのです。思考停止、ステレオタイプから脱し、現実を見据え、危機感の中から柏崎の可能性を見いだすための予算を編成いたしました。



むすび

新たな可能性、 光を求めて進む



先日、「柏崎の花 — Spring Collection 2024」を開催し、5日間で3千人を超える方々から、絵画、生け花、ちぎり絵、大崎の雪割草など、花の競演をお楽しみいただきました。また、市内温泉旅館にもご協力いただき、冬場の観光需要創出の糸口ともなりました。真冬に、市内外の皆さまから足を運んでいただいたのです。市民の皆さまの中にも閉塞感が漂う中、一時ながらも華やかさ、明るさ、「光」を期待してご来場いただいたものと拝察しております。

冒頭申し上げましたように柏崎を取り巻く状況、環境は厳しいものがございます。私は従来から「形よりも実質的なものを」「量よりも質の時代に入っている」と申し上げてまいりました。経済、福祉、教育などあらゆる領域において同様であります。



理想と現実。厳しい現実から目を背けず、理想の光を見失わず、前に進むことが柏崎の使命だと考えております。そして、私たち柏崎市民には可能性、新たな光を求め、自ら歩を進める勇気があると確信しました。

公文書における元号と西暦の併記。柏崎市が平成31(2019)年に始めました。徐々に広がり始めていると承知していますが、いまだ全国では少数派であります。しかし、圧倒的に便利であり、国際化社会において現実的であります。

エネルギー行政もしかりであります。原子力発電所に関する見解は分かれるかもしれませんが、昭和49(1974)年、電源立地点における地域振興に関して法整備、いわゆる電源三法が成立しました。その骨子、考え方を組み立てたのは時の内閣総理大臣田中角栄氏と柏崎市長小林治助氏を始めとする柏崎市職員でありました。全国の立地自治体が恩恵を被っています。

柏崎は常に進取であります。

冒頭、ご紹介したガルブレイスの著作から46年前、名著『剣の刃』が書かれました。現代フランスの父とも呼ばれた軍人であり、第18代の大統領でもあったシャルル・ド・ゴールによるものです。

その書き出しは、「現代を象徴するものは不確実性である」と始まっています。そして、そのむすびにはこう記されているのです。「今こそ、高い理想を見つめる時である。今こそ、己にふさわしい哲学をうちたてる時である」

さらに、ドイツの哲学者であり、政治家でもあったゲーテの言葉。

「古いものを誠実に守る心 新しいものを正しく捉える心を育てよ」

不確実な時代、柏崎は先人が培ってきた歴史、伝統を大切なものとし、しかし、そこにとどまらず、新たな可能性、光を求め確固たる信念の下、進んでまいります。

柏崎市民の皆さま、市民の代表たる柏崎市議会の皆さまのご理解とお力添えを心よりお願い申し上げます。施政方針といたします。

☎総務課

TEL21-2330 FAX22-5904

施政方針の全文

市ホームページで読むことができます。



令和 6 (2024) 年度予算がスタート

※端数処理の関係で計算結果に相違があります。

固財政管理課 TEL21-2364 FAX22-5903

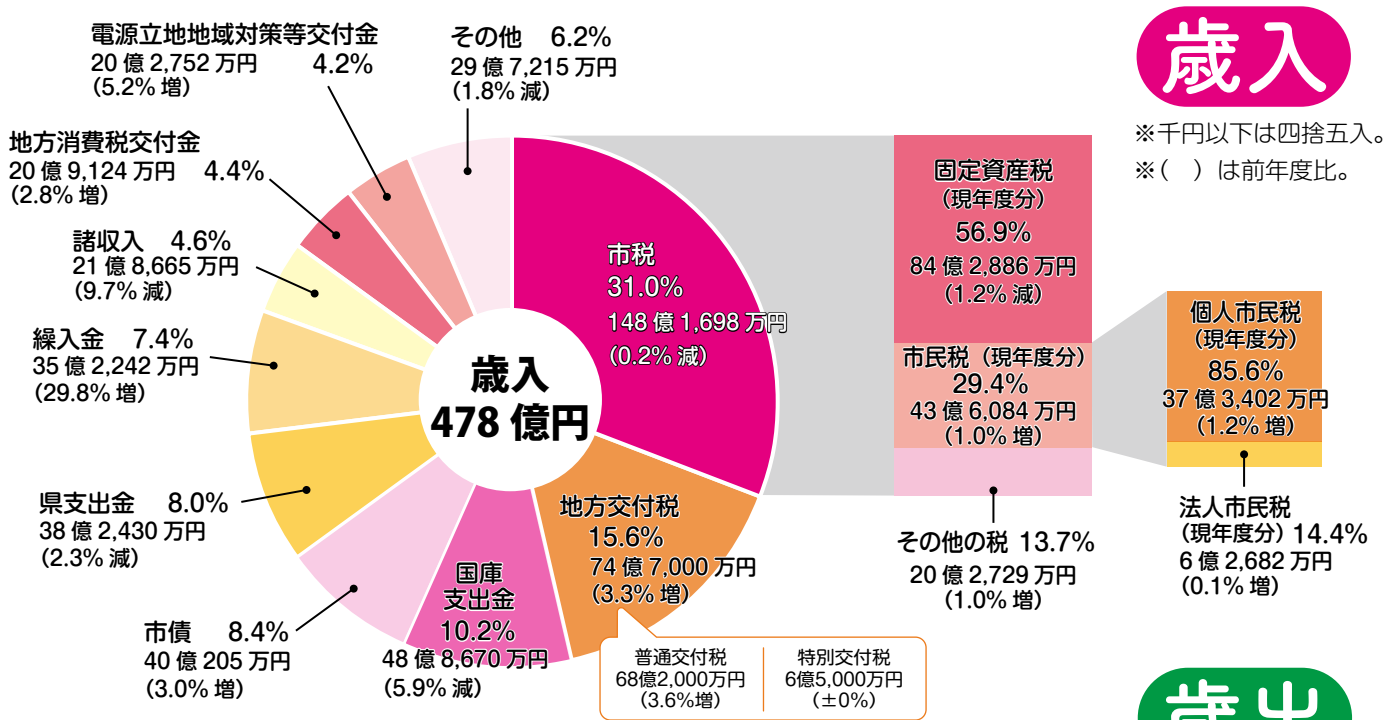
一般会計予算

478 億円 (前年度比 1.3% 増)

令和 6 (2024) 年度予算額は、前年度当初に比べ 6 億円、1.3% 増の 478 億円です。

(借換債 (※)) を除く実質的な予算額は 474 億 4,845 万円で、前年度当初に比べ約 5 億 3,541 万円、1.1% の増)

※借換債とは、過去に発行した地方債の残高を一定期間後に全額返済し、同額を再度借り入れる地方債のこと。



歳入

※千円以下は四捨五入。
※() は前年度比。

歳出

※千円以下は四捨五入。
※() は前年度比。

歳入用語の解説

地方交付税…市の財政状況に応じて、一定の基準で国から交付されるお金

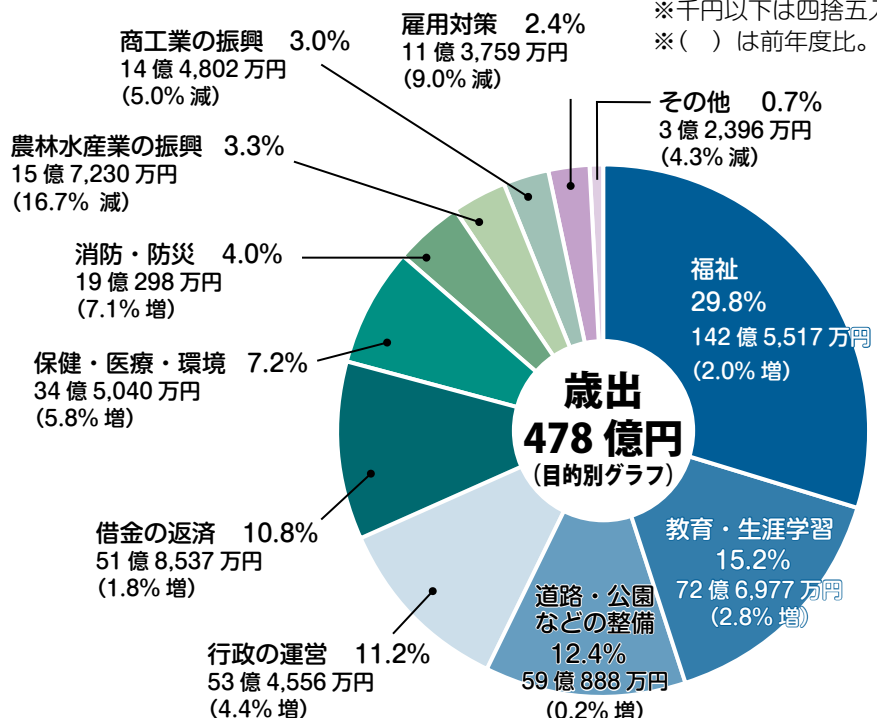
国庫支出金…市の特定事業のために国から支出される補助金など

市債…国や金融機関からの借入金

県支出金…市の特定事業のために県から支出される補助金など

地方消費税交付金…地方消費税のうち市町村に交付されるお金

電源立地地域対策等交付金…発電所の立地に対する地域住民の理解・協力を促進することを目的として、地域振興や地域福祉の向上を図るためのお金



特別会計

193 億 2,981 万円（前年度比 1.0%減）

令和6(2024)年度特別会計当初予算（増減率）		
国民健康保険事業	88億3,364万円	(-1.3%)
事業勘定	84億7,735万円	(-1.4%)
直営診療施設勘定	3億5,629万円	(-1.2%)
後期高齢者医療	12億3,566万円	(+15.3%)
介護保険	89億9,818万円	(-4.7%)
土地取得事業	2億2,498万円	(+295.2%)
墓園事業	3,735万円	(+360.1%)
計	193億2,981万円	(-1.0%)

公営企業会計

162 億 3,938 万円（前年度比 11.0%増）

令和6(2024)年度公営企業会計当初予算（増減率）		
水道事業	57億6,579万円	(-0.6%)
下水道事業	104億7,359万円	(+18.7%)
計	162億3,938万円	(+11.0%)

※千円以下は四捨五入。

令和6(2024)年度 柏崎ふるさと応援基金の活用事業

市を応援して下さる方々から多くの寄付（ふるさと納税「ふるさと応援基金」）をいただきました。ありがとうございます。

皆さまからいただいた寄付は、次の事業に活用します。



使い道	充当事業	寄付金充当額
人と自然にやさしいエネルギーのまちづくりのために	<ul style="list-style-type: none">●不法投棄防止対策費●ごみ減量化・リサイクル対策費●資源物リサイクルセンター管理費 など	1 億 3,833 万円 全額が令和5(2023)年寄付分
子どもたちのために	<ul style="list-style-type: none">●放課後児童健全育成事業●情報機器管理費（小学校・中学校）●指導補助事業 など	1 億 9,361 万円 全額が令和5(2023)年寄付分
若者と女性のために	<ul style="list-style-type: none">●大学との連携・協働事業●雇用促進事業●若年者就労支援事業 など	2,980 万円 全額が令和5(2023)年寄付分
市長におまかせ	<ul style="list-style-type: none">●子どもの屋内遊び場施設整備事業●子どもの屋内遊び場施設運営委託事業●ぎおん柏崎まつり事業●展示会「柏崎の花ー Spring Collection」の絵画購入 など	2 億 6,633 万円 令和5(2023)年寄付分：9,933万円 令和元(2019)～令和4(2022)年寄付積立分：1億6,700万円
	合計	6 億 2,807 万円

※千円以下は切り捨て。

一部抜粋

※千円以下を切り捨てた金額を表記しています。

予算の詳細などを確認できます



子どもを取り巻く環境の充実

1 歳児・2 歳児の保育料無料化



◀保育園で遊ぶ子どもたち

保護者の負担軽減や就労を支援するため、市内の保育園、認定こども園などを利用する1歳児、2歳児の保育料の無料化を継続します。



子どもの屋内遊び場の整備

1 億 1,530 万円

屋内遊び場を新たに整備し、子どもの遊び場環境を充実させます。



家庭養育の応援

1,358 万円

保育園、認定こども園などを利用していない1歳児から小学校就学前までの子どもがいる世帯に、家庭養育応援券を発行します。

荒浜小学校の改築

15 億 5,215 万円



▲完成予想図

建設後 50 年が経過した荒浜小学校の校舎棟を改築します。

地域活性化・市民福祉

路線バスなど公共交通への支援

1 億 8,212 万円



◀AI 新交通 あいくる

路線バスの運行事業者に補助などを行う他、公共交通の利用促進に向けた取り組みを行います。また、AI 新交通「あいくる」の利用状況を分析し、利便性を向上させます。



若年がん患者の在宅療養を支援

65 万円

40 歳未満の在宅療養がん患者の、在宅サービス利用料の一部を助成します。
※詳細は 23 ページをご覧ください。

コミュニティセンターの整備

1 億 4,520 万円

災害時の円滑な避難などのために、松波コミセンの駐車場と比角コミセンの周辺広場を整備します。また、中通コミセンに太陽光発電設備を設置します。

大変革期を乗り越える 産業イノベーションの推進

企業誘致活動の取り組み

9,216 万円



▲赤枠内が新たな産業団地の候補地（旧鯨波公園）

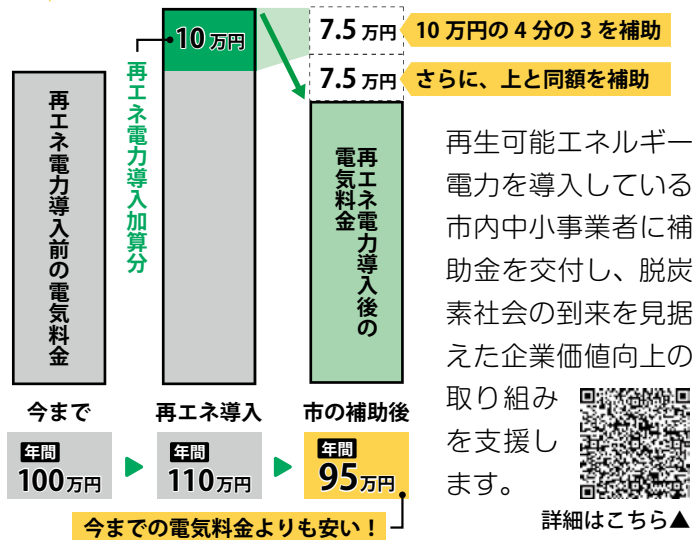
企業の新たな用地取得や設備投資、雇用状況に応じて助成金を交付します。また「柏崎市鯨波産業団地整備基本構想」を策定し、新たな産業団地造成の事業着手を見極めます。

事業構造強化促進事業

NEW 脱炭素化の取り組み

9,619 万円

電気料金が年間 100 万円の中小事業者が再生電力を導入し、加算分が 10 万円だった場合の補助例



新分野展開・事業転換

製造事業者が、経済社会の変化に対応し、さらなる成長に向けた新分野展開や事業転換を実現するための取り組みを支援します。

人材育成・確保

NEW 介護のしごと 魅力発信・創出

34 万円

人材獲得に向けた合同研修会や事業所の垣根を超えた若手職員の交流会を開催します。また、介護の仕事の魅力や技術を紹介する市民向け講座や高校生への出前講座を行います。



介護職員による、高校生向けの出前講座▲

新規就農者の育成支援

396 万円

農業法人などが行う就農者向けの研修費に対して、全国農業会議が交付する助成額を上回る費用を市が上乘せして助成します。

NEW 農業者の保険加入を促進

337 万円

農業者が農業経営収入保険または農業共済に加入したときに、補助金を交付します。



◀猛暑の被害を受けた田んぼ

雇用の促進

1,089 万円

高校、大学、企業との連携懇談会▶



採用活動を強化した企業へ補助金を交付します。また、産業界、市内大学・高校と連携し、大学生・高校生の地元定着を図ります。